

とくしま林業アカデミーの学生の皆さんと列状間伐の現地勉強会を行いました

平成 30 年 11 月 21 日
徳島森林管理署

1. 徳島森林管理署では、11月20日、三好市の祖谷山国有林4林班で事業実行中の森林環境保全整備事業(保育間伐活用型)において、とくしま林業アカデミー3期生の学生の皆さん(3名)と、列状間伐の定着に向けた現地勉強会を行いました。
2. 「列状間伐」とは、植栽列や斜面方向等に沿って直線的に一定の列(幅)を決めて伐採する間伐方法で、①選木の手間がかからない、②伐採・集材が容易、③残存木の損傷率が減少、④労働災害の原因であるかかり木が減少、⑤高性能林業機械を用いた作業システムによる生産性向上が可能という利点があり、国有林で先導的に導入しています。
3. 現地勉強会では冒頭、徳島森林管理署の職員より列状間伐の目的、列状間伐と点状間伐の生産性の比較、列状間伐における主な作業システム、労働災害の軽減効果などについて説明を行い、その後、アカデミーの学生、当署職員、森林官が2班に分かれて実際に間伐木(列状)の選定を行いました。とくしま林業アカデミーの学生の皆さんは、三好西部森林組合の指導の下、スイングヤーダーによる集材、プロセッサによる造材作業を体験しました。最後に、間伐木を現地で確認しながら選木と伐採を行う「点状間伐」による立木の搬出の作業を行い、「列状間伐」と「点状間伐」の作業効率(生産性)の違いを体験しました。



列状間伐勉強会の様子



当署職員の指導の下、選木を行う学生



列状間伐(伐採後)

4. 徳島森林管理署では、今後も、列状間伐の定着に向けた取組とともに、とくしま林業アカデミー、那賀高校森林クリエイト科など地域の森林・林業を担う人材育成を積極的に推進してまいります。